

生命を安心して預けられる病院 健康と生活を守る病院 「あなたとあなたの家族によりそう」「安全 快適 自己実現」



医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院

広報

訓



2021年 **3月号** vol. 29

"医療の質"を問いかけ、話し合う

第8回 QI大会開催















発表部署は、看護部、副診療部、事務部まで

日々の業務の中で発生したインシデント・アクシデントを振り返り、"医療の質"に向き合う中で、何が足りず、何をすべきだったのか、そして改善するために何をどう取り組んでいくのかを発表するQI大会。発表部署は、看護部、副診療部、事務部まで多職種にわたり、発表演題は20題。

今回は新型コロナウイルス感染症に伴い、オンラインで別会場でも視聴かつ質問もできるように工夫を凝らし、感染対策を講じ密にならないように開催。発表終了後は、着目した課題とその対策、継続可能な改善案かを総合的に審査をし、順位毎に表彰。1位は臨床工学科の『高気圧酸素治療における中止及び終了症例を調査してみて』。高気圧酸素治療を中止、及び途中で終了した症例が増加している事に着目。中止理由の中でも、耳痛によるものに関しては臨床工学科で予防策を講じる事ができるのではないかとして取り組んだ対策案を発表。小松良司臨床工学技士長は、「課題に取り組んだ事が患者様の苦痛を和らげる結果になり、笑顔を見れた事がうれしかったし、同時に患者様の立場に立った業務の在り方を再確認できた。」と語った。

2位はシルバーホームいずみの「椅子へのシーティングによるアプローチ」。シーティングとは、適切な座位姿勢を実現することにより、二次的障害の予防、活動と参加の促進、心身機能・構造の改善を促す事。椅子・車椅子を利用して生活する人を対象に、座位に関する評価をし(機器の選定、調整、マネジメントなどを含む)、実施してみたところ、身体機能に変化がみられ心身共に利用者様が生活する上での動作が向上したとして、その取り組みを発表した。3位は、透析室の「透析開始工程における指差呼称の有効性」。2019年度から段階的に透析室を拡張し、登録患者様も増え、最新の透析機器も導入し配置スタッフも増やした事もあり、透析開始時の目標徐水量などの設定ミスを事前に防ぐ対策として、二人一組で設定を行い、指差呼称でダブルチェックをするなど体制も強化した。「確認工程のフレームワークを一連の系統的な流れで作り上げた事でチェック機構が機能し、安全対策が有効に働いており、今後も安全・安心な透析医療を提供できるように臨床工学士と共にサポートしていきたいと」結んだ。



1位 臨床工学科 技師長 小松 良司さん



2位 シルバーホームいずみ 介護福祉士 伊藤 高広さん



3位 透析室 看護師 千葉 昌代さん

多職種にわたり、演題は20題。





努力賞 2 階西病棟 看護師 岡田 聖子さん



努力賞 HCU 看護師 佐々木 美希さん

努力賞は、HCUと2階西病棟。HCUは「入室患者様に対する口腔ケアにおいて適切な評価方法の確立に向けての取り組み~日本語版OHAT(ORALHEALTH ASSESSMENT TOOL)の評価を用いて統一した口腔ケアの実施~」。口腔内ケアの内容や回数を見直してケアを実施する事で、口腔内の状態が改善された事を報告。今後の課題として、個々が適正に評価できるよう、歯科衛生士による勉強会を開催していくとした。

2階西病棟の発表演題は、「経鼻胃

管挿入患者のミトン使用率低下への取り組み」。経鼻胃管の固定方法を見直し、抑制が解除できた事でミトン抑制の使用率が半減した成果を発表。固定方法見直し後の抑制率を数値で比較しても効果が表れていて、患者様の精神的ストレスの緩和・夜間良眠につながったと共に、皮膚トラブルも発生しなかった。『今後も病棟全体で見守りを強化し、抑制を行わない取り組みを継続しながら、受け入れ患者様の状態によりそった看護を行っていく』とした。

その他、日々のインシデント報告上半期目標達成部署として、2階西病棟、6階西病棟、放射線科を表彰。佐藤裕恵看護部長と片岡隆行事務長は、「回を重ねる毎に、表彰部署を決めるのが難しくなってきている。それは、インシデントを見逃さず、改善に向けた対応策に取り組む姿勢が向上している表れ。発表の仕方を工夫しながら今後もこのような場を設けていきたい」とそれぞれ語った。佐野憲院長は、「課題の抽出とその取り組み方法、そして分析から結果に至るまでレベルが上がってきている。医療を取り巻く環境は日に日に変化していくので、現状に満足する事無く、医療と介護を進化させていってほしい」と総括した。



インシデント報告上半期目標達成部署 2 階西病棟



インシデント報告上半期目標達成部署 6 階西病棟



インシデント報告件数目標達成部署 放射線科

新築移転進捗レポート vol.8

建設中の新病院が、高所恐怖症 泣かせの高さまで到達しました!

~見えなくなる箇所こそ綿密且つ緻密な技術で

現在、中層階から高層階に向かって鉄骨を組んでいる段階で、下層階ではフロア内の工事も着々と進んでいます。定期的に現場で写真を撮らせてもらうには、足場に組まれた外階段を上がっていくわけですが、高所恐怖症の私にはもはや限界の高さです。作業されている方々には本当に頭が下がります。

組み上がった鉄骨を見て、ひとつ疑問に感じた事がありました。それは、新築なのにどうして錆だらけの鉄骨を使うんだろう…。まさか、どっかで長い年月放置されていたものなんじゃないか…。思い切って聞いてみました。すると、読者の皆さん知っていましたか?わざと錆び付かせているんですって。

錆びつかせる場所と錆びつかせてはいけない場所に薬剤を塗ってコントロールし、錆を利用して 丈夫にするんですって。なるほど、なるほどですね。コンクリートに埋まっていずれ見えなくなって しまう箇所こそ、職人の技でしっかり仕上げていくから安心安全な建物になっていくんですね。

1階内部



5階床工事



泉中央方面に向かって撮影



運転免許センター方面に向かって撮影



職員向け院内研修会レポート

CS委員会主催 第4回 接遇研修 「電話対応~日々の挨拶で身に"つける"接遇」

CS委員会主催で「電話対応」について接遇研修を開催。病院に電話をくださる方々からは、つながるまでの時間の長さをご指摘頂くこと事もあり、ご用件に即した部署におつなぎするまでの時間をどう短縮するかを重点的に行いました。感染対策の観点から、対面式の実践方式ではなく、資料をスクリーンに映し、「いい例」「悪い例」を実際の事例をもとにスクール形式で実施。講師は、CS委員の経理課の今野さん。

「院内では、各部署毎に内線があり、個別のPHSを含めるとその数は200を超えます。適切に用件を聞き、決してたらい回しにならないようにしなければなりません。そのためには、各部署がどんな業務を行っているかをしっかりと把握し、名前と顔を一致させておく必要があります。これまでは、日々のコミュニケーションや様々な研修等で、職員同士交流を深める機会



がありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で院内行事もセーブしています。しかし、日々の「挨拶励行」をしっかりする事でも、横と縦のつながりは深まり、「接遇」は身につきます。基本的な事とできる事からしっかりと実践していきましょう。」と呼びかけました。

取材/広報誌編集委員

「CT触媒加工」って知っていますか?

正面玄関から入ってすぐのデスクの上に広報誌や徳洲新聞を置いていて、管理は編集部員で行っています。何となく寂しいなあと感じたので、しれっと人工植物を置きました。生花だと匂ったり、虫が寄ってきたりして院内に飾るにしては適さないし、何といっても我が編集部員は花が苦手なので人工植物にしました。でも、ただの人工植物ではないんですよ。皆さんは、「CT触媒」ってご存じですか?主なメリットは次のとおりです。

- ●光の当たらないところでも、消臭分解、抗菌、空気清浄作用がある。
- ●触媒が表面に残留している間は、効果を発揮する。
- ◆人に無害で安全。□に含んでも肌に触れても、毒性はない。

つまり、「光触媒」ではないので、細菌や臭いに反応にして化学反応を起こし除菌・消臭します。しかも、精巧に作られていて、本物と見紛うほどのクオリティ。水やりなどの手間も不要で長期間飾ることができます。我々の他に、CS委員会でも季節に合わせた飾りつけを正面玄関などにしているので、来院される際は、目を楽しませていって下さいね。









取材/広報誌編集委員

リハビリテーション科

DESONALO MARCOUT

前回はHALのしくみについてご紹介しましたが、今回はHALの効果について私たちの治療体験も含めてご紹介したいと思います。

HALを装着して定期的に歩行練習を行うことで、HALを脱いだ後の歩行改善効果が期待されます。具体的には、歩行速度や歩行耐久性の維持・向上などの効果に加え、歩行以外の立位動作など日常生活場面におけるトイレ排泄や入浴動作などの自立度を維持して患者さんの在宅生活を継続することへ繋がると治療経験を通して実感しています。1回の入院で9回のHAL歩行練習を実施するのですが、治療開始前と終了時において身体機能、動作能力を評価しており、終了時の方が歩行速度の向上や歩行耐久性の向上を認めた事例を経験しました。あるALSの患者さんは、ご自身でもHAL実施後の方が自信をもって立位や歩行を伴う生活動作を遂行することができると話されていました。

ALSなど進行性の難病の方の運動機能や動作能力は、時間とともに低下していく経過をたどるものであり、現状を維持していくということが非常に難しい課題であることは想像できると思います。HALは症状進行を遅らせ、動作能力を維持し、患者さんの生活を継続していくための数少ない治療の一つです。HALが力を貸してくれることで患者さんの身体的負担を軽減しながら効率よく歩行練習を行うことができます。もし、適応疾患の方で治療をご希望の方がおりましたら、お気軽にご相談ください。

ロボットスーツHAL 適応疾患

脊髄性筋萎縮症 球脊髄性筋萎縮症 筋萎縮性側索硬化症 シャルコー・マリー・ トゥース病

遠位型ミオパチー 封入体筋炎 先天性ミオパチー 筋ジストロフィー











Sentoku News



This is a Pen 🗦





~こだわってもいいじゃないか、好きなんだモノ~

私は人と話す時、意識的に目をやる場所があります。それは胸ポケットのペンです。結構なペンを差している人をみると、心の中で「おぬし、なかなか…」と思ってしまいます。きっかけは、東洋のシンドラーと呼ばれた杉原千畝の存在です。戦時中、ドイツ軍から逃げ延びるためにリトアニアの日本大使館に押し寄せたユダヤ人に、何千枚ものビザを発行した歴史上の偉人として唯一好きな人物です。戦国大名とかは興味がありません。映像も写真も残ってないし、会ったこともないし。書物だけで構成された歴史を信用しろって言われても。仮に本当だとしても、織田信長も豊臣秀吉も徳川家康もかなりの殺戮を繰り返しているわけで、比叡山焼き討ちとか、三条河原の処刑とか、水攻めやら兵糧攻めとか意味がわかりません。徳川家康が腰かけた石とかのありがたみもわかりません。白虎隊伝説は好きです。豊臣秀次が自害した際の血しぶきがしみ込んだふすまを見た時は、ゾッとしました。

話を杉原千畝に戻しましょう。その時に使用したペンガ彼の遺品から出てきました。それは、このペンで大勢の人を助ける事ができたと感傷に浸るためではなく、このペンでもっと大勢の人を助けられたかもしれないという自分に対する戒めのために取っておいたのではないかと言われています。彼は、日本政府からのビザを発給しないように求めてきた電信に対して、そもそもそんな電信届いていない事にしたり、受信機が故障しているように装った「おとぼけ大作戦」や、手書きは大変なので簡略化した領事館のゴム印を勝手に作っちゃうなど、公務員としてはおろか組織に属しているサラリーマンにとってもなかなかのタブーをやってのけました。携帯の電波が悪いフリをするのと同じですね。それが原因か、帰国してから外務省から冷遇されたとの話もありますが、晩年、ビザの発給で生き延びたユダヤ人達により、その偉業は世に出る事となり、名誉が回復しました。やっぱり一生懸命に行動を起こした人のラストはこうでなくてはいけません。黄門様が出てきて印籠を出すのと同じです。こうでなくてはいけません。まさに、文太の名言「弾はまだ残っとるがよ」なのです。こうでなくてはいけません。

そんな彼に触発された私は、彼が愛用していた万年筆と同じメーカーのボールペンを20歳の時に買いました。そしてこのペンを人生の大事な場面でのみ使おうと決めたのです。その大事な場面とは何か、そう結婚です。婚姻届を筆おろしと決めていますが、購入してからウンジュウ年、未だに一回も使用する機会に恵まれず、私の胸ポケットに佇んでいます。隠れ家的なレストランを開いたけど、隠れすぎてお客さんが全く来ないのと同じですね。トホホ。

今年こそ、書けますように。アーメン。























新型コロナウイルス流行の前は、オンラインでやり取りするのは、一部の限られた人達だと思っていましたが、使わざるをえない状況になって四苦八苦している今日この頃です。世の中の変化に柔軟に対応していくためには、「食べず嫌い」では進歩しないんですね。広報誌も医療に寄せられるニーズに応えていけるようにしていきたいと思っています。 地域連携室/千葉 英二

基幹型臨床研修病院の役割

当院は厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院として研修医を受け入れており、臨床研修協力病院・施設と連携した研修プログラムを充実させ、患者さまに対して安心でより質の高い医療を行える医師を育成してまいります。 基幹型臨床研修病院の責務として、地域における中核的医療機関として更なる充実に努めて参ります。

基幹型臨床研修病院とは医学部を卒業し、医師免許を取得した医師(研修医)が卒後2年間、基本的な手技、知識 (初期研修)を身につけるために経験を積む病院であり、研修医が皆様の診療に携わることがございますが、趣旨 をご理解下さいますようお願いいたします。

2021年(令和3年)3月発行

医療法人徳洲会 仙台徳洲会病院 広報誌

編集・発行:地域連携室 発行責任者:院長 佐野 憲 印 刷 所:モリタ印刷株式会社



医療法人德洲会 仙台徳洲会病院

〒981-3131 宮城県仙台市泉区七北田字駕籠沢15 **TEL:022-372-1110(代表)** FAX:022-372-1499





